

オンライン総合相談窓口

ウィズコロナ時代に飲食業を継続していくための挑戦

Rozell (ロゼル)

代表者名 竹内 真由美
所在地 福井市
業種 飲食業
事業内容 素材にこだわったガレットとクレープの専門店



事業活用までの経緯

開業準備の段階から産業支援センターの創業マネージャーの助言を受け、2016年6月に店舗をオープンした。開業後も初めて経験することが多い中で、広告宣伝や販路開拓のやり方、販売状況の分析や確定申告など、アドバイスが欲しい時に、その都度、センターの相談窓口で助言を受けてきた。

活用内容

SNSを使った集客やコロナ禍での売上減少について悩んでいたため、佐々木コーディネーターに相談し助言を受けた。具体的には、フォロワー数を増やす取組みの助言、コロナ禍を乗り超えるための小売・サービス緊急補助金を使ったテイクアウトの効率化、持続化補助金を活用したホームページの機能充実等、総合的な支援を受けた。これらの支援により、Instagramのフォロワー数が伸び、来店客増につながったことで、コロナ禍にあっても売上高は前年同様を維持できている。

よろず支援拠点

和紙製のマスクケースを開発。 コロナ禍の売上減少をカバー

山田兄弟製紙 株式会社

代表者名 山田 晃裕
所在地 越前市
業種 製造業
事業内容 越前和紙、各種和紙製品



事業活用までの経緯

和紙製の企業向けノベルティの売上がコロナ禍の影響で、ほぼなくなってしまった。売上回復の見通しも立たない中で、別の分野での売上確保を図らねばならなくなつた。こうした状況下でマスク着用が常識となり、これに関連する商品のニーズが出てきたことから、越前和紙で携帯用のマスクケースを開発したい、という相談を受けた。

活用内容

調査の結果、マスクの形状は集約できそうなことがみえてきた。そこで長財布型と2つ折型を基本パターンとして検討するよう提案した。また商品の細部については、紙で試作を行い、よろず支援拠点のコーディネーターとの打合せで適切な形状を考案した。色や柄についても、女性がターゲットとなる事を念頭に女性コーディネーターが同社からの提案を精査し、改善点を指摘しながら改良を進めた。その結果、構想から1ヶ月で製品化に成功し、飲食店やホテル等からの受注確保につなげることができた。

